

豊橋市民病院だより

青竹

23

NO.

2005.1.21

編集：病院広報紙編集委員会

委員長 鈴木 道生

- 2 感染症管理センターと院内感染対策チーム(ICT)の活動
- 5 新任医師のご紹介
- 6 診療技術局から
- 7 くすり箱
- 8 ご意見箱～院長からのご返事
- 11 チーム医療について
- 12 お知らせ



ブロンズ彫刻「翔」

豊橋市民病院

感染症管理センターと 院内感染対策チーム（ICT）の活動

豊橋市民病院 感染症管理センター 医長 山本景三

はじめに

当院は2000年6月に院内感染事故を経験しました。汚染された注射液のため5人の患者さんに菌血症が発生し、うち1人の方が亡くなりました。この事故の反省を踏まえ院内感染対策委員会を中心として院内感染の防止に取り組

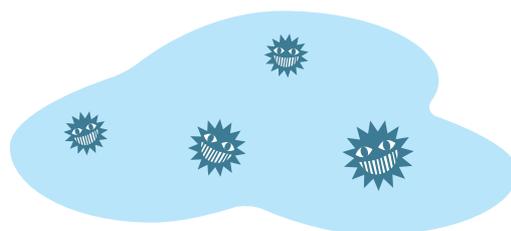
み、その一環として2003年4月に感染症管理センターが設置されました。本稿では感染症管理センターとこれに関連する組織の活動についてご紹介したいと思います。

院内感染対策とは

院内感染対策の目的は次の4つに要約されます。

1. 患者さんへの感染を防止する
2. 医療従事者への感染を防止する
3. 医療費の削減
4. 医療の質の向上

最初の2つは言うまでもないことです。医療費については、ひとたび院内感染が発生すると入院期間が長くなり検査や治療に多くのお金がかかるということです。院内感染を防ぐことで無駄な医療費が削減されます。院内感染の発生率の把握と対策は、病院機能評価などでも取り上げられていることからわかるように、その医療施設の質を示す重要な指標の一つです。



院内感染対策チームの活動

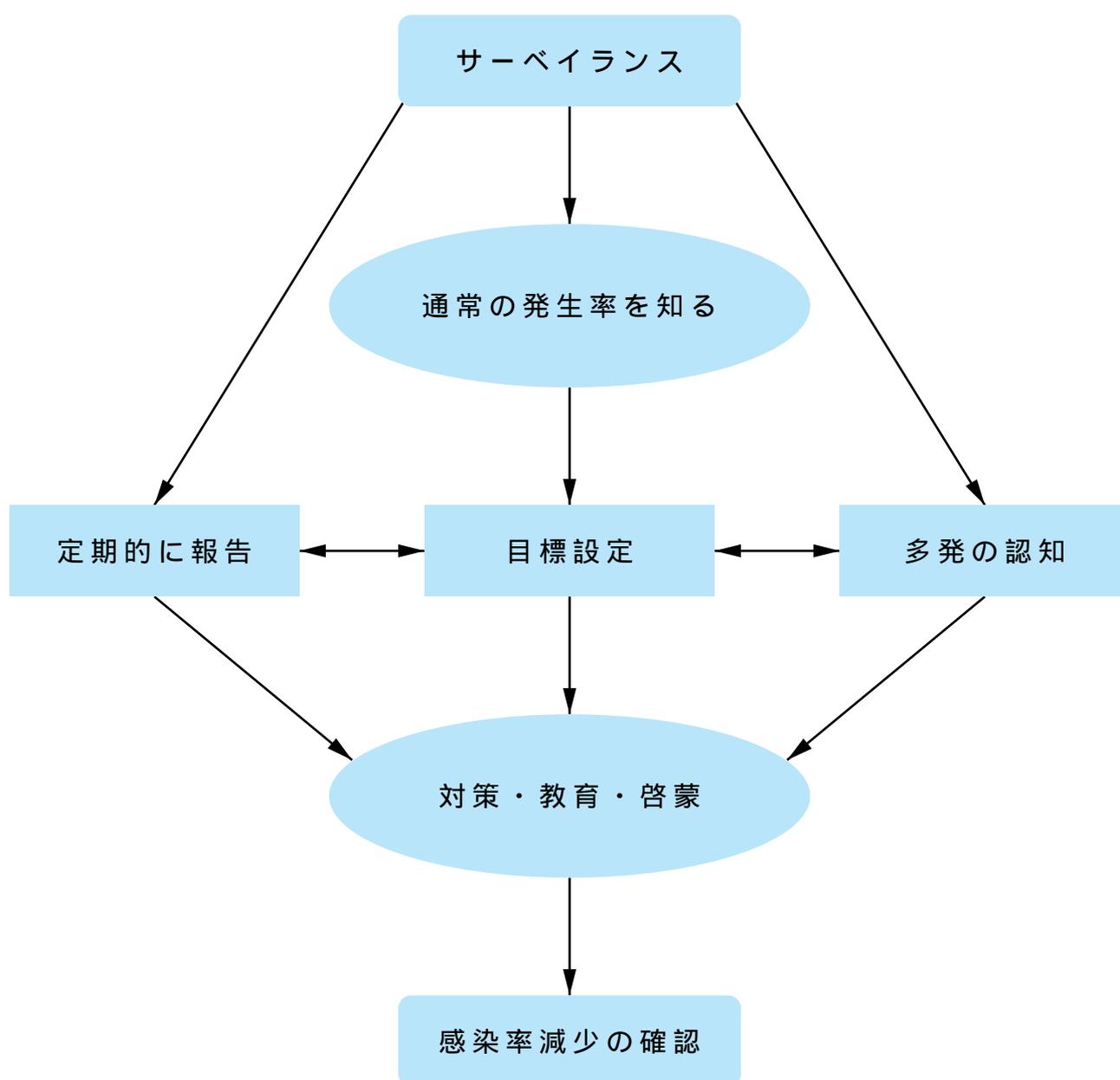
感染症管理センター医師を中心に、看護師、薬剤師、検査技師、事務に参加を求め2004年4月に院内感染対策チームが発足しました。これはいわば院内感染対策委員会の「実働部隊」

ともいえるもので、院内感染対策委員会で決まった方針を全病院的に広く実践・定着させる役割を持つ組織です。次のような活動を行っています。

サーベイランス

サーベイランスとは元々「見張り」を意味する言葉です。

院内感染の発生と分布状況を継続的に調査し、分析し、報告するシステムのことを言います。



多剤耐性ブドウ球菌（MRSA）は院内感染の原因微生物として代表的なものです。MRSAによる感染の発生状況を2003年7月よりサーベイランスしています。

皮膚は各種病原体から生体を守るもっとも強力な障壁です。一方病気の治療には手術療法が行われることもあり、これはその強力な障壁であ

る皮膚を切り開かねばなりません。このため手術の傷口や体内に病原体が感染して感染症が発生してしまうことがあります。これを手術部位感染といいます。2004年7月より一般外科の一部の症例を対象に手術部位感染のサーベイランスを実施しています。

教 育

院内の全職員向けの講演会をおよそ3ヶ月に一度の割合で開催しています。また2004年8月から「ICTラウンド」と称して各部署の巡回を行っています。今年度はひとまず院内感染対策のための環境整備や、現場での問題点の洗い出

しを目的としています。ラウンドの後にはディスカッションの時間を設け、また後日報告書を作成し各部署での話し合いの資料として提供しています。

今後の活動

来年度からは日本看護協会の研修カリキュラムを修了した認定感染管理看護師（ICN）がチームに加わります。サーベイランス網の充実、コンサルテーション、職業感染（針刺し・切創）の防止、抗菌薬の適正使用など、さらに活動の幅を広げていきたいと考えていますので職員の方々にはご理解とご協力をお願いいたします。



新任医師のご紹介



- ① 所属
- ② 前任地
- ③ 趣味
- ④ その他 自由（抱負、自己PR、家族のこと、最近思うことほか）
- ⑤ 赴任年月日

小山 新一郎



- ① 耳鼻いんこう科
- ② 名古屋市立大学病院
- ③ 特になし
- ④ 平成16年11月からお世話

になっております小山と申します。

名古屋市立大学病院から転勤して参りました。立派な病院で働けることを大変うれしく思っております。市民病院の充実した設備を生かし、適格な診断と治療をしてまいりたいと思います。また、学会発表なども積極的に取り組みたいと思っています。

患者の皆様、スタッフの皆様どうかよろしく願いいたします。

- ⑤ 平成16年11月1日

矢野 隆



- ① 心臓血管呼吸器
外科
- ② 愛生病院
(名大胸部外科)
- ③ Walking
- ④ 初めまして。

平成16年10月より心臓血管呼吸器外科副部長として赴任いたしました。心臓外科にとって手術室、集中治療室、病棟が同じ3階にあることは大変ありがたいことで機能性に優れた病院であると思います。また、病院周辺の景色もものどかで、環境面でも素晴らしいと思います。研修医時代以来の単身生活を楽しみながら、患者さま及び病院に、少しずつ役立っていきたいと思います。よろしくご指導お願いいたします。

- ⑤ 平成16年10月1日



診療技術局から



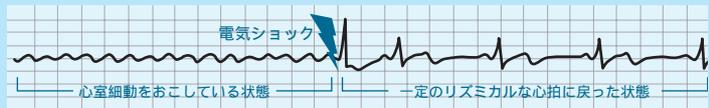
臨床工学室

自動体外式除細動器(AED)とは

自動体外式除細動器 (AED : Automated External Defibrillator) とは、電気ショックが必要な心臓の状態を判断できる心臓電気ショックの器械です。突然死のほとんどは心臓疾患です。それを心臓突然死といい、その大部分は「心室細動」という不整脈が原因となっております。(「心室細動」による死者は、年間約5万人と推測されています)



「心室細動」になると心臓が痙攣し、ポンプとしての役割が果たせず、助かる



チャンスは1分経過するごとに約10%ずつ失われ、10分後にはほとんどの人が死に至ります。この「心室細動」を正常な状態に戻す唯一の方法は、除細動(心臓への電気ショック)です。そこで、早期の除細動ができるAEDの使用が必要となり、素早い除細動は社会復帰の鍵にもなります。心臓突然死とAEDについて多くの皆さんに知ってもらい、誰もが除細動器を操作できるような環境整備と、公共性の高い場所や乗り物へのAED配備が急務だと考えています。

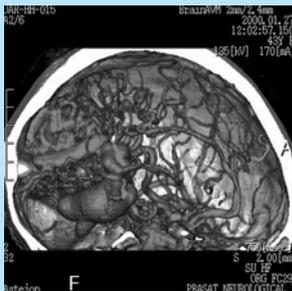
放射線技術室

最新鋭機器導入

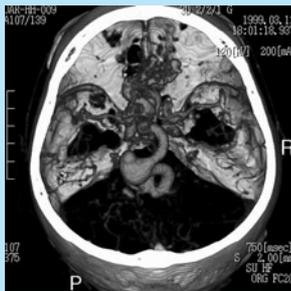
CT装置は急速に進歩し、今日の医療には必要不可欠なものとなっています。

豊橋市民病院では、平成16年10月より、東芝製多列検出器型CT(マルチスライスCT)が導入され、臨床に用いられています。

マルチスライスCTの出現により、非常に広い範囲を短時間で撮影することが可能になりました。また、より細かい撮影が可能になったことにより、従来得られなかった心臓の血管をはじめ、いろいろな部位の血管の情報が、立体画像、さらに動画として見るできるようになり、さらに病変のより詳細な形態診断が可能となりました。



頭部CTAngio (3D)



頭部CTAngio (3D)



胆石MPR像



解離性大動脈瘤 (3D)



災害時と薬

災害時には、交通機関の麻痺や流通の停滞によって生活必需品同様、薬についても手にはいりにくくなります。ご家庭の災害対策として、普段から必要な薬を用意するとともに、薬についてよく知っておくことが大切です。

病気などで薬をもらっている場合

薬の確保

救護所や避難所に集められる薬は、けがや火傷といった外傷の処置に使われるものが優先される傾向にあります。従って、普段から飲み続けている心臓病や喘息、糖尿病といった慢性疾患の薬や、発作時の薬は手に入りにくくなるので、ある程度（2～3日分余分に）確保しておく必要があります。

薬の知識

かかりつけの病院にかかることができず、他の病院や救護所を利用しなければならないこともあり、病気や薬についてよく知っておくことが必要です。飲んでいる薬については、名前や含量(mg)、働きについてメモをとったり、説明書やお薬手帳を携帯するなど、いつでも分かるようにしておきましょう。



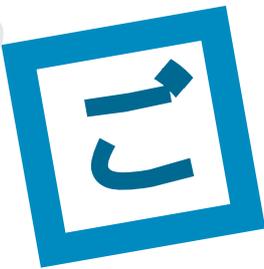
家庭にて備えておきたい薬

普段から家庭で使用している薬は、救急箱などにまとめておきましょう。かぜ薬や胃腸薬、頭痛・生理痛・腹痛時の薬など時々使うお薬は、普段使っている使い慣れたものを用意しておきましょう。また、軽いけがなどに備えて消毒薬

を用意する場合は、かさばらないタイプのものがよいでしょう。



薬 局



～ 院長からのご返事～

1. 入院中、院内でメールができると便利だと思います。すでに実施している病院もあります。



『携帯電話を病院内で使用することにより、医用電子機器に障害を引き起こす可能性があることの他に、電話を使用される方の声で周りにご迷惑をおかけすることもあります。そのために無制限の許可は問題であると考えています。現在場所を限定して携帯電話を使用して頂く案も検討しています。このときにメールのご利用についても併せて考えます。』

2. 東4階の洋式トイレの便座が割れているので直してほしい。



『このご意見を頂いてから早速に担当者が修理を完了いたしました。ご連絡ありがとうございました。なお、この様なことを見つけられた時にはお近くのナースステーションまでご連絡頂ければ一層早く修理をいたします。』

3. 窓口は仏頂面して受付してほしい。又、院内放送での呼び出しも受診を知られたくない人もいると思うプライバシーにも係ると思う。予約時間にいないのは患者本人が悪いので呼び出しは減らしてほしい。



『診察や検査を行う現場で何度もお呼びしたり、お待ちしたりしていてもお探ができない場合などには放送でお名前を呼ばせて頂く必要があることをご理解ください。なお今後お寄せ頂いたご意見は十分に尊重するようにいたします。』

4. 内科受診した際、あまりにも専門的な言葉で意味がわかりませんでした。検査結果の時は女医さんでとてもわかり易く説明してくれました。



『当院では診療の内容や検査の結果はこの女医さんのように、十分に理解して頂ける易しい言葉でご説明することが決まりになっています。これからも一層このことを徹底いたします。』



5. 十人十色の病んだ人たちを仕事とは言え、平等に心のこもったさりげない言葉や態度で癒してくださる皆さんに感謝。「決めた事は必ず守る。」病院長の方針に基づき全員の益々の精進を願います。

ご返事

『この様なお言葉は私共医療を行うものを大変に励ましてくれます。私どもはこれからも良い医療を提供するように努力いたします。お礼のお言葉を頂きまして、誠にありがとうございました。』

6. 新生児医療センターにお世話になっていて先生はじめ看護師さんたちには温かく接して頂いておりましたが、すぐ新生児室から出られる子と重度の障害を持つ子が一緒になっているのは親にとって言い知れぬ切ない気持ち苦しみがあり、個人のプライバシーが守れる設備があれば気持ちも救われますが、狭い中でも障害に合わせて分けていただけたらと思います。

ご返事

『新生児医療センターはご指摘の様に部屋が広くないのでご要望のような区分を設ける事は困難ですが、頂いたご意見を十分に尊重して運営を行います。なお、ご家族の方の悩みや心配事については医療相談室でご相談をお受けいたしておりますのでご利用ください。』

7. 健診受付でバリウムを飲むと便秘するので下剤を下さいとお願い（3回、他の人にもお願いした）したら中に下剤が入っているから水を飲めばよいと聞いてもらえなかった。強引に貰いましたが、非常に不愉快でした。

ご返事

『胃腸検査に用いられるバリウムを飲まれると、ご意見をお寄せして頂いた方のように、大部分の方が便秘に苦しまれるので、バリウムにはあらかじめ液状の下剤が入っております。このことを分かり易くお伝えできなくて申し訳ありませんでした。』



8. 病室の棚の位置が高すぎて物を入れにくい。ベッドの下に物入れがあると便利だと思う。

ご返事

『ご意見ありがとうございました。但し現在のベッドは下に物を置く事のできる構造になっていません。棚に物を入れやすくすることが必要だと考えます。検討いたします。』

9. 交通事故で救急外来に入り医師より「手の施しようがないからICUでは家族が付き添えないから、一般病棟で家族が見てください。」と言われ、一般病棟に入院させていただいたが、入った早々看護師より「隣の患者はしっかりしているから、泣きたい気持ちは分かるが我慢してください。泣きたかったらディルームにしてください。」又、21時になると「21時以降の付き添いは2人までにしてください。」と言われイスを片付けだし、手で払うように出されました。死を待つ患者に対する配慮があっても良いのではないのでしょうか。中には優しい看護師さんもあり患者にも家族にも気遣ってくれ心が休まりました。



『大変重症の方に対して配慮が足りなくて申しわけありませんでした。今後十分に指導いたします。』

10. 看護師の帽子は衛生的にもあった方がいいと思う。



『看護専門学校などにおいて基礎的な講義を修了し、病院実習を開始する前には看護学生一人一人が帽子を戴く大変清らかで、厳かな儀式がおこなわれます。この様に看護師の帽子は従来その職務にある者の象徴として重んじられてきましたが、近年業務の妨げになるとの理由で多くの病院で廃止しています。』

11. 診察時無理に検査を強要され、断ると後は知らない、と脅かすような口ぶりで言われ傷ついた。



『当院では医療の内容は十分に説明を行い、これを理解して頂き、納得して頂いてから行うようにいたしています。今後このことを十分に指導をいたします。』

12. 入院中、気分転換に、中庭で散歩したいので、ちょっとした休憩所があるといいのでは。



『当院の敷地にある樹木は生長して立派になってきましたが、安らくことのできる場所をできるだけ多く設ける必要があると考えます。皆様からのご提案をお待ちいたします。』

13. カメラ（胃・大腸）等緊張する場所では音楽などかけてリラックスできるようにしてほしい。



『心を癒す音楽が病の治癒に良い効果をもたらす事が分かってきて近年医療の中に音楽が取り入れられつつあり、音楽療法と呼ばれています。当院では内視鏡検査を受けて頂く場所は狭いため、待合の場所も充分ではないので改修することが検討されています。その折にご意見を取り入れる様にいたします。』

「チーム医療について」

豊橋市民病院長 瀬川昂生

この記事の題であるチーム医療という言葉をご存知でしょうか。最近、新聞記事の医療欄でも見かけることがあるのでご存知の方もおられるかも知れません。この欄ではこのことについて当院の状況を述べます。通常、医療は医師の指示の下に行われますが、医療行為は病院においては様々な職種の者が参加して達成されます。近年、医療は益々専門化、高度化していますが、夫々の専門職が一生懸命仕事を行っていても、バラバラに業務を行うことになりがちです。そこで様々な職種、例えば医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、ケースワーカーなどが密接な連携を行い診療にあたることをチーム医療といいます。専門技術を持った者が連携することにより一層きめ細かい医療を提供することができます。さ

らにはこれらの者が集まり一つの事柄、一つの症例について一緒に考え合う検討会を持つことが望まれます。このような場所では参加者は対等の立場で意見を述べ合います。職種の異なる者が互いに顔を合せて知恵を出し合うことにより、さらなる治療成績の向上が得られます。当院では現在多忙な日常業務の中ですが、末期がん患者の心身の苦痛を和らげる緩和医療、疾病の回復を早めるために必要な栄養状態を評価しその改善を図る業務を行っている栄養管理、院内感染を予防すると共に耐性菌に起因する感染症の抑制を目指す感染対策について院内の検討会を持っています。今後各々のチームの活動を充実するとともに、この輪をさらに大きく広げてゆくことが必要であると考えます。

豊橋市民病院のモットー

信頼に応える技術、人に優しい思いやりのある心、地域に開かれた安らぎのある病院

豊橋市民病院の基本方針

1. 地域に開かれた信頼のある病院、患者に優しい思いやりのある医療を目指します。
2. 地域の基幹病院としてふさわしい高度な医療を提供するとともに、特殊医療、救急医療等を積極的に受け持ちます。
3. 基幹病院としての役割を担いながら、他の医療機関との間の有機的な連携のもとに当院の行うべき医療活動を推進します。
4. 医学及び医療技術の研鑽に努めるとともに、医学・医療の進歩に寄与します。
5. 研修医、医学部学生、看護学生、コメディカル、救急救命士などの教育を積極的に行います。
6. 地域住民の保健知識の普及に努め、健康増進活動に参加します。
7. 公共性と経済性を考慮し、健全な病院経営に努めます。

お知らせ

第31回健康教室

- と き** 平成17年2月19日(土)
午前10時～11時30分
- と ころ** 豊橋市民病院講堂(診療棟3階)
- 内 容** 講演
「高齢者の転倒と骨折について」
講師：森 弘幸
リハビリテーション技術室 理学療法士
リハビリに関する質疑応答
- 対 象** どなたでも
- 参加料** 無料
- 申 込** 平成17年2月15日(火)までに、はがき(住所・氏名・年齢・電話番号を明記)か直接または電話で豊橋市民病院健診センターへ
-
- 〒441-8570 豊橋市青竹町字八間西50番地
☎0532-33-6271



当院のご案内は下記でも行っています。併せてご覧下さい。

豊橋市民病院インターネットホームページアドレス

<http://www.municipal-hospital.toyohashi.aichi.jp>